

平成 2 9 年度 第 2 回 神 戸 市 ス ポ ー ツ 推 進 審 議 会

と き 平成 3 0 年 3 月 1 4 日 (水)

午後 3 時 2 8 分 ~ 午後 5 時 1 8 分

と ころ 神 戸 市 役 所 1 号 館 1 4 階 1 1 4 1 会 議 室

- 1 開 会
2. 局長あいさつ
3. 委員紹介
4. 議 事

○事務局 それでは、お手元の資料1をごらんいただきたいと思います。

平成29年度スポーツ実態調査結果についてということで、これにつきましてはその下に書いてますように、現在の神戸市スポーツ振興プランの次期計画として国のスポーツ基本法に基づく推進計画を策定するに当たり、昨年、実施期間書いてますけども、10月にアンケート調査を実施したというものでございます。

実施方法は神戸市のネットモニターシステムを活用したアンケート調査、回答者がこのモニター登録者で、この登録者というのは神戸市内に在住の18歳以上の方でございまして。運動スポーツに関することについての設問20問、対象者が対象数が3,061名おられたんですが回答は2,167名ということで約7割の回答率というものでございます。

ちょっと先に28ページをごらんいただきたいと思います。

今申しあげました2,167名のお話でございすけども、28ページの真ん中の回答者の属性、下を見ていただきましたら男性と女性、これ足しましたら、今申しあげた2,167名になります。形上、女性の方がかなり御回答をいただいているというような状況のもとでのアンケートの御説明になるかと思ひます。上に戻っていただきまして性別でいきましたら、今申しあげた男性が約30%、女性が7割。年代が40代の方が最も多く御回答いただいで30.7%、次は30代の方で27.5%ということが、全体的な結果の中でも、何かの要因としてこの世代が多いということが関与している部分もあろうかと思ひます。居住地区で申しあげますと、西区、垂水区の方が非常に多くお答えいただいでいるという状況でございす。職業につきましては、

フルタイムの方が3割、最も多かって、次は家事専業の方が3割弱、アルバイトの方が2割と、こういう方の御回答ということ念頭に置きながら、ちょっと順番に説明をさせていただきたいと思います。

前に戻っていただきまして、6ページをごらんいただきたいと思います。

1番から6番までまず説明いたしますが、この円グラフの青と赤に注目をしていただければいいのかと、1番から6番の。いわゆる、それらの質問に対して円グラフの下に書いてます、例えば1番の場合、健康状態につきましては健康である、どちらかといえば健康であるという、そういう方の合計が約8割を超えているというような状況でございます。同じく2番目の体力の目標は青と赤、体力の自信につきましては若干4割ぐらいしか御回答いただけてないと。

7ページ、運動不足についての御質問につきましては、8割以上の方が不足を感じていると。4番、スポーツの実施日数につきましては、ここだけ済みません、4色の色を順番に足して青、赤、緑、紫ですけども、36.7%の方が週に1日以上運動・スポーツを実施していると。

それから8ページのほうに5番、その実施の理由はということで、健康のため、それから楽しみ、気晴らし、体力増進、運動不足を感じるから。

次に9ページ、スポーツを実施する最も大きな理由、これは健康のため、楽しみ、気晴らし、家族、体力増進・維持と。そういうことで1番から6番かいつまみますと、健康の意識は非常に高うございます。運動不足は認めながらもなかなか踏み込めてないのかなというのが1番から6番の全体像かと思えます。

次に7番の運動・スポーツの実施場所。これは身近なところでございます。公園とか3番目の道路、真ん中は自然、こういったところで場所を選ばれている。

次に8番、実施種目、これは気軽にできる、手軽にできるウォーキング、それからラジオ体操、こういったところがやはり上のほうを占めている。

次に12ページの9番、実施種目、これもその中でも一番多く実施したのがウォー

キング、体操ということで、7番から9番を全体見ましたら、やはり身近で手軽に行えるスポーツを皆さん選ばれているのかなというような状況かと思えます。

13ページをごらんいただきたいと思えます。

話が変わりまして、スポーツクラブ21の話になるんですけど、認知度。これは紫のところを見ていただきたいんですけども、7割弱の方がちょっとスポーツクラブ21知らないというような状況でございます。

11番、現在のスポーツクラブや同好会の加入、ここに注目すべきは、実際に一番下でございます、加入したことがないということなので、逆に言えばいろんな情報とツールを使用することによって、この6割ぐらいの方が加入に向くようなその取り組みが必要なのかなというのも、これまた後ほど議論かと思えます。ということで、今までのところは、身近な機関の情報が入れれば動いていけるのかなというようにも読めてきます。

14ページの12番、スポーツイベントへの参加、これは緑のところ注目していただきたいですけども7割の方が参加したことがないと。ただ、設問がその下に書いてますように、神戸市やスポーツ団体及びスポーツクラブ21などが催すスポーツイベントという、こういう設問についての御回答というところだけの認識はお願いしたいと思えます。

13番目、定期的な運動・スポーツの実施ということでこれは左側の2つ、青と紫を見ていただきたいんですけども、この方々が、下に書いてますように現在スポーツはしておられないという方です。ただ、下側の紫、22%の方は6カ月前には何とか始めようと思っているというような御回答かなと思えます。

次に15ページ、14番の運動・スポーツの情報ニーズ、やはりここにも出てくるのが健康・体力づくりの情報のあればいいなというのが一番上に出てます。各スポーツ教室の案内とか行事イベント、こういうものに続いていっているのかなと。その他のところをちょっと見ていただきたいんですが、乳幼児と参加できるスポーツイベン

ト、子連れでもできるスポーツ情報、それから、障害者でも参加できる、子育て中。実際にやはりこういったある一定のなかなか取り組みができない部分がある方に関しては、こういうふうなお声があるということかなというように思います。

15番にいけば、今後新たに始めてみたい運動やスポーツにつきましてはヨガ、これもウォーキング、それからトレーニングということで、やはり健康の意識、身近なところの取り組み、そういったところがかいま見えるような状況でございます。

17ページ、1カ月にかける運動・スポーツへの費用、ここからは費用の面でございますけども、青の部分をごらんいただきたいと思います、円グラフで。1) 全くかけてないという方がこの青の部分でございます。2) クラブやレッスン料、3) 全くかけていない人が7割、4) 施設使用料も含んで全くお金をかけてない人が7割を超えている。

次の19ページにいきましても、スポーツ観戦の場合でも全くお金をかけてない方が4分の3を占めている。交通費・宿泊費も4分の3がかけてないということで、今までのところでいきましたら、余り費用をかけてないというのが全体的な実態の状況かと思えます。

20ページ、スポーツイベントへの関心で18番、これにつきましては青と橙、右2つを見ていただきたいですけども、関心がある、まあ関心があるという方が4割弱というものでございます。具体的にはその下に、今のがラグビーワールドカップですけども、2番目はその下ですけども、東京オリンピック・パラリンピック、こちらのほうは約7割の方が関心があるのかなと。

次のページ、21ページ、ワールドマスターズ2021年、少し先でございますけども、こちらの分に関しましては若干割合が低うございまして約1割の方、青の2.3と赤の8.6で、1割の方が関心があるというような状況でございます。

それから22ページ、1年間のスポーツ観戦、これは野球、それからサッカー、そういうところがやはり見ている方の中でも、そういう競技が比較的高い。一番下、逆

にこちらは伸びしろかと思えますけども、見なかったという方が56%おられるという、そういう状況でございます。

次のページ、23ページ。テレビなどの、いわゆる直接見なくてテレビを通しての視聴、これもやはり野球関係、サッカー関係の方が見られている方が結構高いのかなというような状況でございます。

24ページのほうに移りまして、ここからはボランティア、支える部分でございますけども、緑の部分が92%、その下を見ていただきましたらいわゆるボランティア活動を行っていないという方が9割程度の御回答をいただいていると。ただ、行っている方のボランティア活動内容は21番、大会イベントの運営や世話、もう1つは自身やお子様が所属するスポーツ団体やクラブでの補助的な活動ということで、支えるスポーツというようにまだまだなかなか浸透してない中で、身内や指導者、審判という業務とのかかわりということがかかわっているのかなというようなお答えになっているかと思えます。

25ページ、障害者スポーツへのかかわり、これにつきましては見たり聞いたりすることが余りないが52%ということで、棒グラフの一番下になってます。

23番の運動・スポーツの重要度、ここは右の青と橙。いわゆる運動・スポーツの重要度は非常に関心が高い、7割占めておられるということ。

参考に26ページの生活の充実感でいえば、青と赤足しましたら6割の方は充実感を得ているというものでございました。

あと27ページに自由意見、自由記述の主な抜粋ということで、これもまたごらんいただきたいと思えますけども、上から2つ目のちょぼで、子供の預け先が必要、それからその下、託児所つきの施設があれば参加したい、それから働いている人が参加できるという、いわゆる壮年期の社会人の方、女性の方、子育ての方、こういった方のお声が上がっているというのが全体的なアンケートの結果ということでございます。

以上でございます。

○会長 ありがとうございます。29年度実施しました実態調査の結果について報告いただきました。回収率が70は結構多いですね、高いです。これまでのネットモニターを見ましても高いということは、やっぱりスポーツに対して関心が高いんだなということではないかなと思ってます。御意見、御質問等があれば、何でも結構ですので出していただければと思います。いかがでしょうか。

○委員 よろしいですか。回答者の性別の比率ですよ。これがちょっと極端に3割、7割で、かなり女性の意向が強いという感じなんですよ。だから、このデータをそのまま神戸市の傾向として読んでいいのかどうかというところがちょっとね、例えば女性が好むようなスポーツ種目が特に上位を上がってくるわけですよ、エアロビクスとかヨガとかってというような種目が。そういったようなことも含めて、その辺どのように考えればいいのかってということ。

それからもう1つ、健康状態、みんな非常に健康への意識は高いんですけど、これも年代によって健康への意識の持ち方というのは変わってくる部分もありますよね。それも含めて60代から90代までが非常に、約2割ぐらいの回答者ということで、もう少し調査するときには男女比の差等を少し考えられなかったのかなという、その辺がちょっと資料を読ませてもらって感じたことです。

○会長 関連でどうぞ。

○委員 今、おっしゃったというのと、やはりネットモニターというのは非常に年配者はちょっと取りづらいのかなあという、その辺のところでも今このカテゴリーのところからいくとなかなかやっぱり少ないという。それと、女の方は結構今言ったようにエアロビクスとかそういうのがあるから、そういうのが結構上位にきてるという、その辺も考えると全くこれをうのみにするいうのも、今言ったようにちょっと考えないといけないかなという気はします。

それから、ネットモニターも非常にいいんですけど、もうちょっとほかにもあるのかなと。高齢者も、そういうような健康調査。特にお年寄りなんかは、もう非常に自

分の健康を気にしてよくやっているといますよ、ほんとにね。公園とかああいうところで。それを考えたら、ちょっとこの回答からいくとなかなかちょっと、その辺のは反映できてないのかなという気はしました。

○会長　調査して分析しましたのでお答えしたいと思います。こういった市民意識調査をやるときには、今2つのやり方がありまして、1つは住基台帳から無作為抽出する、年代別、世代別みたいな。サンプリングしまして、無作為抽出したものに対して郵送法でやるという、こういうやり方が1つあります。もう1つは、最近の傾向ですけど、ネット調査が随分ふえてきました。ネット調査で、こういうふうなものを調査票を一緒に送って、それに書いたやつを送ってもらう。あるいは、この場合は直接ネットのところに質問がありますので、そこで、ポンとこういうふうをクリックしていけばデータがそのまま入ってしまいます。入力の手間が省けてコストは低くなると、こういうような関係のネットの調査というやり方があります。ネットの調査、神戸市のネットモニター調査、ほかのいろんな分野のアンケート、今ネットモニターを使われてやってるんですね。で、今回これでやってるわけですが、指摘があるように、性別が男性が約3割、女性が7割と、そういう意味で女性の意見がちょっと多いというようなことが1つあります。一番ベストは、このネットモニターのこのシステムは今、希望者に全部入れてるんです。公募されてます、誰でも入れます。そういうことで、こういうふうな年代、性別にバイアスがかかってますけども、そういう意味では、逆に数はちゃんと答えてくれてまして、一番ベストは最初に無作為に選んだ人にネットモニターになっていただけますかと、こういうふうに聞いて、その人たちを、やっていくと今の人口構成を比例できるようなやり方なんです。残念ながら今のこの広聴課のほうですか、こちらのモニターを希望者だけしかしてませんのでこれしかできないという。今回の、これは1つの調査の限界です。

郵送法でやりますと、回答が圧倒的に多いのが、高齢者数が多くなります。非常に多くなります。60代、70代ぐらいが物すごい多くなってきて回答率は圧倒的に多



くなります。ところが30代、40代とかこの辺が少なくなります。これを見ますと、28ページを見ていただきましたんですけども、年代別で見ると1位が40代と、2位が30代、このあたりが非常に多いと。ところが50代も数でみると403名、60代が286、70代だと102名もちゃんと回答されてると。そういう意味では数としては、かなり入ってることは入ってますので、確かに自由記述とか意見が出てくると、30代、40代の方の、それも女性のところの意見が多いというようなことはあらかじめインプットされておいて解釈していただければと思います。今回の調査の限界ですけれども。こんなことでございます。

ほかにいかがでしょう。

○委員 例えば、男女の比率少ないと多いがありますが、これは合わせてデータを出してみるとというのはどうなんですか。男性のほうの数をちょっと掛ける2というわけじゃないですけど、それで加重平均掛けて考えると。ですから、サンプルがこのくらいあるんだったらそういうやり方もあっていい、加重平均掛けて大体の、高齢者のところはちょっと難しい、それでも難しいかなと思いますけど。

○会長 加重して、男性をその割合ぐらいで掛けて。ただ、この場合は人数でまずはっきり出てますので、それと重みづけをするというのはあんまりやらないんですよ。確かにそういうやり方もあるかと思いますが。

○委員 あくまでも参考で見るとのことしかできないかなとは思いますがね。

○委員 男子の属性の傾向ですよ。男子がどういったような、女子はどうか、全体はどうかとなると、少しは。

○事務局 それは出せます。

○委員 そうしたら傾向がもう少し、加重しなくても男性の傾向としたらこうだというのが見える。

○会長 それはそうです。結局それやると同じことになるんですよ。性別の男性の傾向、女性の傾向というふうに出せば。そういうこともできますので、こちらのほ

うをもう少しするとわかるかもわかりませんので、そっちのほうも検討してみたいと思います。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○委員 長田区と兵庫区が突出して少ないのは何か理由、意味……。

○会長 これは公募してて、全く誰でもネットモニターはしてますので、結果としてここは少なくなってきたという。

○事務局 前年度の市民ネット調査もあるんですけども、やはりこのときも、今、会長がおっしゃるように応募してもらっているあれがあるんだけども、長田区票が5.2と5.7%とか、もともと少ないです、恐らく。

○事務局 人口の規模が大体、西区、垂水区で、北区、東灘区なので、そこが相対的にやはり多くなっているという結果にはなるんです。

○会長 ほかにいかがでしょうか。

○委員 調査項目13番の日常生活の充実感というのは、スポーツを通しての充実感という調査なんですか。

○会長 最後のほうですか。

○委員 一番最後ね。それとも、生活が一応自分は全部トータルに充実してというのか、スポーツをやることによって充実感を。

○事務局 設問自体を読みますと、日常生活の中でどの程度充実感を感じていますかという聞き方になってますので。

○委員 スポーツとのかかわりではないわけですね。

○事務局 という言い方にはなってないですね。

○会長 今回のこの調査項目は2016年のスポーツ庁の調査の中から重要であると考えたものをここから抽出してます。ですから、神戸独自で勝手につくったということじゃなくて、これが全国平均と比較するという、こういう狙いで調査項目は質問の仕方やワードも全部同じにしてあります。ですので、全国と比較するという。

○委員 昔よくやった給料意識とかね、そういったものがこういったところにあらわれてくるのかなという。

○会長 これがあるのは、生活の理由というのは、スポーツ実施頻度が高い人とそうでもない人と、これを比較してみようというそういう意図があると思う。今回は単純集計ですけども、そんな意味でこれが入ってきてると思います。実際の1つの調査項目は物すごい多くて、これの倍以上みたいな。ちょっと細か過ぎるので、必要なものだけに絞ってあります。

ほかにいかがでしょうか。

一番関心のあるところですけども、週1回ぐらいのところですけども、今回36.7%とちょっと、何でこんなに低いのかなと。理由はいろいろ調べてみてわかりました。どうしてかといいますと、28年にこの委員会で配りましたけども、ネットモニターに対して28年11月に、その年はうんと少ない項目で実施してます、そのときは週1回以上が43.7%だったんです。今回36.7と何で低くなったかというのは、質問の仕方が違うんですよね。28年の前の高いところは、あなたは日ごろ運動やスポーツを行っていますか。（散歩、登山や体操も含みます。）と書いてます。その結果、43.7と。今回の調査項目はスポーツ庁に合わせましたので、スポーツ庁はこの今の、散歩、登山や体操を含みますが入ってないんです。入ってなかった結果、36.7と、こういうふうに下がってしまったと。国のほうも42%です、そのときは、2年前は。事務局で言われましたように、最新では50%を超えた。あれは余りにも低かったんで、今度またそれを入れてるんです。

○事務局 29年度はですか。

○会長 はい。これを入れるとまたぼんと上がります。もうそのぐらい微妙なワーディングをこれだけで変えるんで、国また変えましたので、もし今度合わせて、次やるときに散歩、登山や体操も含みますと、また上がります。

○委員 上の36.3%が週1回でしょう。その下の月1回から3回が16.1%

あるんですよね、月1回から3回ね。3回なのか4回なのかって、月4回になれば月、週1回ですよね。だからこの辺のところは、もう少し、二回ふやせばその数字にはなってくるのかなという。

○会長　これは国のスポーツ庁の調査にそのまま合わせてますので。

○委員　この実態、これからもし人数を、パーセントを上げていこうと思ったら、こここのところに少し焦点を当ててね。

○会長　ターゲットグループとしたら、やっぱりこの月に1、3回。ここが一番これからのターゲットグループになる。

○委員　もう一回やってくださいっていう、もう少しやってくださいという。

○会長　ここをいかに定期的に変えることができるか、言われてるとおりだと思います。今回調査しまして、ちょっとしたこの聞き方で、散歩・体操を入れるだけでほんと上がると。あとで実際、種目を選ぶので、散歩も体操も出てくるんですけども、最初にこっちのほうを聞くもんですから、そういうふう聞き方ってすごい影響してくるなというふうなことを感じました。

○委員　スポーツっていう概念というか考え方が、すごく狭い考え方で皆さんいはるっていうことですか、この調査を。

○会長　スポーツっていうと、そうですね。余りウォーキングなんかもスポーツだって思ってないという。そういうところが、やっぱりイメージがあるんじゃないかなと思います。ですから、そこに最初これもスポーツに含みますよと入れておけば、こういうふうにくるんですけども。

あと、現在やってる種目とかこれからやってみたい種目があります。ページでいくと11ページと12ページのところですけども、今実施したのが、ウォーキング、体操、トレーニング、筋トレ、エアロビクス、ヨガ、ランニング、自転車、サイクリング、登山。この辺まで全部、個人でやる、ひとりでやる運動なんですよね。これからやってみたいのも、実際は16ページですけど、今後新たに始めてみたい、エアロビ

クス、ヨガ、ウォーキング、トレーニング、こういうところがきまして、長期的に見ると、今ここ20年ぐらい競技スポーツの人口が減っているんです。これからいくとますます減ってくるなということで、手軽にみんな健康志向強くてやるんですけども、競技人口がずっとこれはもう減ってきていると。同じ傾向が今回出てますので、そういうような結果もわかるかと思います。

○委員 その辺が難しいところですね。仲間とのかかわり合いとかね、そういうようなことをスポーツの1つの大切な要素って挙げているんだけど、その辺が時代が出てくるんですね。

○会長 はい。

○委員 乳幼児と参加できるスポーツとか、子連れでのスポーツと書いてあるように、15ページの下。このアンケートにお答えされてる30代40代の女性が多いというのも、もう高齢の妊婦さんが多いので、ちっちゃい子供が多いんですよ。だからきっと潜在的には、学生時代にスポーツされてた若かったときにしたことをしたいと思っている人は多いと思うんです、結局したいけどできないんですよ。そこはちょっと調査を見て思いましたね。子供がみんなちっちゃいんです、40代の女の人はまだ。昔とは違うんです、親は。みんな40代っていったらもう子供は大きくなって手放されてると思っていらっしゃるかもしれないけど、ちっちゃいんです、まだ子供は。もう30代以上です、ほとんど今、初めてお産するっていう人ふえました。

○事務局 マラソンのランニングクリニックがあるんです。それで今回提案しようと思ってるのは、ママさんランニングクリニックで、子供を預けることも考えて来てもらったらどうだろうというのをちょっと考えていますけどね。例えば、保育士さんみたいな人がおって、会議室借りて預かっている間、グラウンドを走ってもらってるとか、そんなのをせんと参加できないので。それはちょっと考えたいなとは思ってるんですけど。

○会長 ありがとうございます。今回の調査してて一番やっぱりユニークな結果は

ここなんですよね。今まであんまりこういうのは出てこなかったんですよね。今回30代40代の女性が多いということで、これだけニーズがあるんだけどなかなか子育て中で、こういういろんな障害要因があるなというのをはっきり出てきて、してみたいんだけど実際、託児施設とかそういうのがないからできないというのをはっきり出てきたので、こういったこともこれからやっぱり新しく計画をつくる時にそういうものを入れていくということも重要なことに、ここから学べるかなというふうに思っています。

○委員　かなりこの乳児とお母さんが一緒にやることは、専門性がないと、ただ単に子供と一緒に遊ばせようだけでは、かなり何かの事故が起こることもあるので。

○委員　子供さんを預かって安心できる場所があれば参加したいと思ってる女のひとは多いと思いますよ。

○委員　これは乳幼児と一緒にやる。

○委員　一緒にやりたいと思う反面、本当は自分で昔やってた競技、みんなたくさんとやってたこともやりたいと思っている人はいるんじゃないかと思いますね。

○会長　全然話変わりますが、この間バンクーバーの横にスタンレーパークってありますけれども、ここスポーツ公園なんですよね。いろんなスポーツやってるんですけど、私バンクーバーに行くと必ずそこに行くんですけど、びっくりするのは、ジョギングしている女性が小さい子供を押しながらジョギングしているのがすごい多いんですよね。えーっと思ひまして、ですから下は非常にきれいに舗装されててバウンドしないような形にされてますけど、すごい多いんで最初見たときはびっくりしました。すごい健康志向が強くて、実際構わずに。

○委員　日本だとベビーカーを持っていと、スポーツ施設やと怒られるでしょう。何か邪魔しに来たみたいだね、そういうのが。

○事務局　マラソンのファンランで、日本でも押していけるやつはあります、押せるやつは。乳児も参加しましょうみたいな。ゆっくりですけどね、物すごい。

○会長　ほかにいかがでしょうか。

○委員　スポーツクラブなんですけど、13ページのデータに出てるように認知度がかなり低いという、これはかなりショックなんですけど、ちょっと弁解をさせていただきますと、調査対象が成人以上の方で我々のクラブに所属している半数は小学生ということがあるので、その意見は反映されてないというのをちょっと御理解いただきたいと。それともう1つ、ほんとに認知度がないというのはここで恥ずかしい話なんですけど、会員であってクラブ員になってるという意識がない。これも事実なんです。

○会長　種目はやってるんだけど。

○委員　そう、種目はやってるんだけど、そこのクラブ員であるという、会員であるという意識がない。そういう意味のを認知度が低いというのは反省点でありますので、その辺もちょっと御考慮いただきたい。

○委員　クラブの大もとはその会員だということですね。

○委員　そういうことです。その会員で、自分が会員であるということを認識してない。ただ野球部に入ってます、サッカー部に入ってますだけであってクラブ員ではないという意識があるのでクラブの知名度は低いというふうになる。それと、調査種目のほうで種目を見ても、やはりスポーツクラブはやってる種目は少ないです、ここに出てる種目はやっぱり、個人データというか、の種目が多くて、そういう意味からもちょっと調査対象から外れているなどは見させていただいたんですけど。

○会長　それは子供のほうの調査のところを出しておかないといけないと思うんですね。子供のところを把握しようと思うと、体力テストをやってますね。新体力テストの中に、スポーツ実施率とかそういうのも、少ないんですけども入っているんですよ。ああいったところを見て、それをこちらにもってくるというふうになれば、子供がどれぐらいどんなことをやっているというのが出てきますよね。またそちらのほうも見てみたいと思います。

○委員　ただ、ことしの県の発表で、この間小学5年生と中学2年生男女の対象のデータで、全国平均値は上がっているのに兵庫県は下がったという悲しい結果も出てますので、その辺もちょっと反省点やなとは思っております。

○会長　さっきの委員会でスポーツクラブ21も、今、会員が減少傾向に。昨日全体の会議だったんですけど、県全体もピークの時より3万人ぐらい。

○委員　減ってます。

○会長　ことし、今集計中で、ことしも1万人ぐらい減るだろうと、そんなふうなのがでてますので、ちょっとだんだんいろいろ限界が出てきているかなという。いろんなことを考えていくべきかなというのが現状だと思います。

○委員　補助金が出ているときが一番会員来られておるんでしょうね。

○会長　ほかにいかがでしょうか。

そうしましたら、きょう審議事項2つ用意されてますので、審議事項1の神戸市スポーツ推進計画の策定につきましての説明を、資料②のほうから事務局にお伺いしたいと思います。

○事務局　資料のうち②をごらんいただきたいと思います。

昨年度からお知らせいたしておりますけども、現在策定しております神戸市スポーツ振興プラン、これは2014年度から18年度。次期計画といたしましてスポーツ基本法第10条に基づきまして国のスポーツ基本計画及び兵庫県のほうもスポーツ推進計画というものをつくってますので、これを参考にしながら神戸市の実情に即して新しく神戸市スポーツ推進計画というものを平成30年度に策定する予定でございます。

今、そちらのペーパーの3番目に主なスケジュールとなっておりますけども、この後、この審議会に対しての諮問という手続を踏みますけども、それを踏まえて推進審議会の中で4回ほど御審議いただきまして、最終、ことしの10月に方針をいただければという、そういうスケジュールで考えてます。当然、行政手続でありますパブリック



コメント、教育委員会なので教育委員会の会議を踏まえた上で、市会への報告と、それとあとは計画報告ということで、あと約1年でございますけども、この間に御審議いただけるような流れで今予定を組んでいる状況でございます。

○会長　ありがとうございます。推進計画のスケジュールが記載されてます。この点について、何か御質問や御意見等ありましたらお願いしたいと思います。

きょう骨子案を初めて、この後検討しますけども、最終的な諮問に対する答申が10月からということになっております。答申が終わって、パブコメを実施して、教育委員会の会議、市会等へ報告ということで、3月末に最終的な推進計画ができると、そういうことでございます。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

そうしましたら続きまして、きょうの一番重要な……。はい。

○事務局　済みません。手続的に、諮問の手続だけを。

本日、神戸市スポーツ推進計画、仮称でございます、策定に当たりまして、本来神戸市教育長なんですが、教育長にかわりスポーツ担当局長から神戸市スポーツ推進審議会の会長様に対しまして諮問書の手交を行いたいと思います。スポーツ担当局長から会長にお渡しします。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局　恐れ入ります。形式なことでございますけれども、神戸市スポーツ推進審議会会長、山口康雄様。神戸市教育委員会教育長、雪村新之助。諮問。神戸市スポーツ推進計画（仮称）を策定するため、神戸市スポーツ推進審議会条例第2条第1項の規定に基づき、次のとおり諮問いたします。神戸スポーツ推進計画（仮称）の策定について。どうぞよろしくお願いいたします。

<公開案件はここまで>